

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、子ども自身が目的や必要性を意識し、主体的に思考・判断・表現する子を育てる。	・昨年度からの国語の重点研究の成果を踏まえ、今年度は「読むこと」領域の研究を進めた。 ・ITや少人数指導、学年合同授業など子どもの実態に応じながら授業形態を工夫した。また、昨年に引き続き、地域の方々の協力のもと、3,4年生の希望者が放課後に学習できる機会を設けた。	A
豊かな心	地域の方々との交流や体験活動を積極的に取り入れ、ふれ合いを大切にしながら、自分を大切に作る感情を育てる。	・学習ボランティアや保護者の方々、そして中学生たちと積極的に関わる場を設けた。 ・児童自らが進んであいさつできるように朝の登校時に職員自らが声を出し、学年に応じたあいさつの取組につなげた。	B
健やかな体	基本的な生活習慣を見直し、よりよい生活習慣を身に付けられるようにする。また、一校一実践運動を継続的に取り組み、運動の習慣化を図る。	・「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に児童が規則正しい生活をする姿勢を培った。 ・週一回の「体力アップタイム」や「いきいきキッズタイム」を活用し、運動の習慣化を図った。	A
児童指導	場に応じた言葉づかいを行い、児童がいつでもどこでも進んで明るく挨拶できるようにする。	・学級指導を柱にしてあいさつや場に応じた言葉づかいを指導するとともに、道徳教育、人権・福祉教育と関連させて年間指導計画をたてた。 ・生活目標やあいさつがんばりカードに取り組みながら児童自身が意識していけるように支援した。	B
地域連携	保護者・地域の方々をサポートを生かし、交流や体験活動を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりを行う。	・学・家・地連を中心とした小・中連携での地域防災、スクールゾーンからの安全マップづくりに参加した。 ・学校運営協議会における3部会の活動の広報を充実させた。	B
特別支援教育	一般級における特別支援教育のニーズと個別支援計画策定の仕方、さらに合理的配慮に対する職員の理解を進める。	・一般級と個別支援学級の連携強化に向けてコンサルテーションを関係機関と積極的に行った。 ・支援の必要な児童に対して児童専任が中心となって全校を挙げて児童理解に努め、様々な支援を実施した。	A
a11	a18		
人材育成・組織運営	教職員の専門性が向上するとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修を計画的に行う。	・メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、モデルリーダーが講師になって活動を継続して行った。 ・情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに事務の簡便化、効率化を図った。	B
ブロック内相互評価後の気付き	今年度も中学校の「部活体験」や「合唱祭」に参加するなど、6年生が中学校を訪れる機会を設けて小中交流の活動に努めた。小学校と中学校の職員が互いの授業を参観する機会を設け、その後の話し合いでは誰もが安心して参加できる授業を目指すことを確認し、教科ごとに互いの年間の指導内容を比較参照した。このような話し合いによってこれまで以上に小中互いの指導観の共有化を図ることができた。アンケート調査においては9年間の継続性という意味合いからも小中で同じ設問内容にした方がよいとの意見があり、来年の準備段階で双方で内容のすり合わせの必要が出てきた。		
学校関係者評価	先生や学校の思いを地域に伝えることが大切であり、何に困っていて何をしたいのかというような改善策を地域に示して頂きたいなどの意見が学校運営協議会の席で出された。学校の方で足りない部分や補助を必要とする部分があれば地域として一市民として積極的に援助していきたい。児童アンケート調査では看過できない児童のこころの状態が浮かび上がってきている。教職員がどこを見ているのかを問われるそのような問題点を決して見過ごしてはならない。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	モジュール学習や少人数指導を生かして、学習の基礎・基本の定着を図る。また、国語科の「書く」領域を重点を置いて研究し、交流を取り入れた学び合いを通して、主体的に思考・判断・表現する子を育てる。		
豊かな心	様々な教育活動に、地域の方々との交流や異学年交流、体験活動を積極的に取り入れ、人とふれあうことよさを感じながら、自他ともに大切に作る感情を育てる。		
健やかな体	「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣を見直し、よりよい生活習慣を身に付けられるようにする。また、「体力アップタイム」や「いきいきキッズタイム」を活用し、運動の習慣化を図る。		
児童指導	いつでも、気持ちのよいあいさつや場に応じた言葉遣いができるようにする。また、相手の立場を理解しようとする気持ちを育てる。		
地域連携	保護者・地域の方々をサポートを生かし、交流や体験活動を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりを行う。		
特別支援教育	児童の実態把握の仕方や個々に適した支援について、コンサルテーションを通して理解を深める。また、的確な個別支援計画を策定し、それを生かして段階を踏んだ指導を行う。		
いじめへの対応	いじめについて職員研修を積み重ねるとともに、児童一人ひとりの状況を把握し、児童が認められていると感ずることが出来る受容的な環境づくりをする。		
人材育成・組織運営	教職員のキャリアに合わせた目標設定をし、専門性を高めるとともに、計画的にメンターチームの研修を行い、全教職員の実践力、指導力を高める。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c5		
豊かな心	c6		
健やかな体	c7		
児童指導	c8		
地域連携	c9		
特別支援教育	c10		
c4	c11		
人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			

学校経営中期取組目標振り返り	学習の基礎を身につけるため、学習時間の確保、朝のスキル学習や朝読書、継続的な音読、家庭学習の充実などの学習習慣の形成に取り組んだ。昨年度に引き続いての国語科の重点研究においては見通しや学習の必然性を実感できるように単元の導入を工夫したり子どもと学習計画を作ったりした。子どもが身につけたい力を明確にし、もの見方や考え方を広げるようにした。毎週水曜日は体力アップを実施し、全校で取り組んだ。運動委員会の「体力アップカード」を活用し、体力の向上に向けて取り組んだ。また、横浜市体育協会の協力をいただき、月に2回「いきいきキッズ」として中休みの遊びの広がりにつながる活動をした。
----------------	--

学校経営中期取組目標振り返り	
----------------	--

学校経営中期取組目標振り返り	
----------------	--